

次のような事業で、首都圏などからの移住を支援します！

小林市移住支援金

支給額 世帯での移住の場合：100万円
 単身での移住の場合：60万円
 ※18歳未満の子どもを帯同して移住した場合、1人につき100万円を加算

対象者 以下の条件を満たす人
 ・移住前の10年間のうち通算5年以上、直近で連続1年以上を東京23区内に在住または通勤していた
 ・小林市へ移住し、就業や起業をした

問 = 地方創生課 Tel 23-1148

※対象となる就業形態にはさまざまな要件などがあります。詳しくはホームページ（QRコード）を確認ください



小林市ひなた暮らし移住支援金

支給額 世帯での移住の場合：100万円
 単身での移住の場合：30万円
 ※18歳未満の子どもを帯同して移住した場合、1人につき100万円を加算

対象者 以下の条件を満たす人
 ・移住前の10年間のうち通算5年以上、直近で連続1年以上三大都市圏等（東京圏・名古屋圏・大阪圏）または福岡県に住んでいた
 ・小林市へ移住し、就業や起業をした

問 = 地方創生課 Tel 23-1148



親世帯との同居・近居、住環境改善のための引越費用と転入・転居費用の一部を補助

子育て世帯を応援するため、共働き世帯に対して親世帯との同居・近居、住環境改善にかかる引越費用などを補助します。

対象者 共働きで児童（※）を養育する世帯
 ※18歳に達する日以後の最初の3月末日までの間にある者

補助対象 敷金、礼金、権利金、仲介手数料、退去費用等賃貸借契約に係る費用、引越費用

補助費用 親世帯と同居（同居・敷地内別居）上限20万円
 親世帯と近居（同じ小学校区内に転入・転居）上限10万円
 住環境改善（前の住居から子育て住環境が改善）上限10万円

申請期限 令和6年3月31日まで 問 = こども課 Tel 23-1278



移住・定住の準備のためのお試し滞在を支援

移住・定住を目的に、市内で住居や仕事を探すなどの活動に係る宿泊費・レンタカー代を補助します。

補助金額

・市内の指定宿泊施設に宿泊時の基本料金1/2補助（最大2千円）
 ・レンタカー代の1/2補助（最大3千円）

問 = 地方創生課 Tel 23-1148



地域を盛り上げる地域おこし協力隊を募集中！

都市部から小林市へ移住し、地域おこし活動を行う「地域おこし協力隊」を募集中です。応募には居住地などの条件があります。詳細は市ホームページを確認するか、地方創生課へ問い合わせください。

須木地区と一緒に盛り上げてくれる仲間を募集中！



地域商社の株式会社 BRIDGE the gap（地域おこし協力隊 OB が起業）と提携し、栗園の栽培管理やすきむらなどの運営支援などに取り組んでいただけます。2年目以降は、須木地区を取り巻きさまざまな課題の解決に向けた新たな事業の企画立案などに取り組んでいただけます。

問 = 地方創生課 Tel 23-1148



食で地域の未来を拓く！道の駅のシェフ募集中！



第三セクター・ハーメックのじり株式会社と提携し、道の駅のレストランでの調理や地元食材を使った新メニューの開発、地元企業との交流や連携などに携わっていただけます。2年目以降は、小林市の「食」を通じて、地域での起業や就業を視野に活動を行っていただけます。

問 = 地方創生課 Tel 23-1148



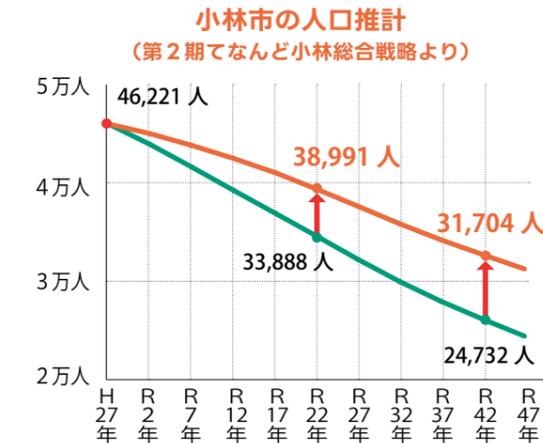
家族・親戚と話し合ってみませんか？ 小林へのUターン

コロナ禍で働き方や生活への考え方などが変わり、近年「都市部」から地方への移住を希望する人が増えています。

市では、移住を検討している人のサポートを行っているほか、地域の課題解決などに取り組む地域おこし協力隊を募集しています。

都市部に住んでいる家族や親戚と、小林市へのUターンについて話し合ってみませんか。

問 = 地方創生課 Tel 23-1148



人口減少を緩和するため、小林市の人口は、昭和30年（1955年）の6.4万人がピーク。全国的に進む少子化の影響や、進学・就職に伴う若年層の市外への転出とその後Uターンの少なさが要因で、平成27（2015）年には1.8万人減の4.6万人と減少しており、令和22（2040）年には約3.4万人まで減少することが予測されています。（※緑色のグラフ）

このまま人口減少が進むと、さまざまな産業の担い手不足や地域経済の縮小、コミュニティ

機能の衰退など、私たちの生活に大きな影響が出るのが考えられます。

市では、人口の現状を分析して将来の展望や取り組むべき施策の方向性を示す「第2期でなると小林総合戦略」を策定。人口減少を緩和し、令和22年の人口が約4万人、令和42年の人口が約3万人という目標を設定（※オレンジ色のグラフ）し、目標達成に向けてさまざまな施策に取り組んでいます。

家族・親戚と話し合ってみませんか？
 小林市へのUターン

コロナ禍を経て働き方や生活環境が変化したことで、現在「都市部」に住む若い人たちの間で、地方へ移住することへの関心が高まっています。

市では、移住支援金などの制度で小林市での生活を希望する人を応援しています。

自然の豊かさや人の温かさなど、皆さんが考える「小林市のよさ」を県外に住むお子さんや親戚へ伝えて、小林市への移住について話し合ってみませんか？

小林人で紹介した2人も小林市にUターンしました

轟木 凌也 さん（南西方出身）

上京前は小林の魅力に気付いていませんでしたが、一度市外に出たことで、日常の中に素敵な時間や素晴らしいものがあったんだと気付きました。

友人たちのなかには、小林に帰りたくないと話している人もいます。小林には帰りたくないと思うような不思議な魅力があるのではないかと思います。



比志島 隆太 さん（堤出身）

刺激が欲しいと思い、高校卒業後に上京しましたが、毎日朝6時半から満員電車で通勤し、会社に着く頃にはくたくたになっていました。

最近では新しいお店が増えるなど、自分の高校時代と比べて小林に新しい風が吹いていると感じます。CHILKも新しい風の一つでありたいと思います。